

# 大切なお米を守り続けるために

長岡市立四郎丸小学校

五年 佐藤 伶一

ぼくは、お米が大好きです。そして、とても大切なものだと思います。その理由は、二つあります。一つ目は、農家の人が一生けん命作っているのを間近で見ているからです。

ぼくがふだん食べているお米は、おじいちゃんやおじさんが作ってくれています。毎年秋になると、おじさんに教えてもらいながら、コンバインという機械に乗って、いっしょにいねかりをします。コンバインに乗るのは楽しいし、そうじゅうする姿はとてもカッコいいと思います。しかし、おじさんたちは、汗をかきながら何時間も乗り続けるので、大変だろうとも思いますが、その姿を近くで見ているので、新米を食べると、いっそうおいしく感じます。おじさんたちが、がんばってお米を作ってくれたことへの感謝の気持ちでいっぱいになります。

また、ぼくは、九十六才のひいおばあちゃんがそのお米で毎年作ってくれる三角ちまきも大好きです。ぼくが赤ちゃんのころから食べさせてもらっている思い出の味で、ぼくのお父さんも小さいころから食べていたそうです。ひいおばあちゃんは、三角ちまきの作り方をそのまた親から教えてもらったそうで、昔からずっと続けている食べ物なので、将来ぼくの子どもにも食べさせてあげたいです。

お米を大切だと思う理由の二つ目は、米不足でお米

の値段が高くなっていることです。特に今年の夏は、晴れて暑い日がたくさんあったせいで、土が乾き、いねの栄養が不足したり、八月になって雨がふったりしましたが、ふりすぎてどろが流れこんでしまった田んぼもあると聞きました。このような異常気象のせいで、米のしゅうかく量が減ってしまうそうなので、節電や食品ロスを減らすなどの一人一人の行動で、少しでも異常気象の対さくをしていかなければいけないと思います。

他にも、米不足の原因は、高れい化で農家が減っているためだということもニュースで知りました。おじさんの家の近くの田んぼでこれまで米を作っていた人が、年をとって今年からできなくなったから、おじさんに代わりにその田んぼで米を作ってほしいとたのまれたそうです。でも、他のところでは周りに田んぼをまかせられる人がいなくて、米作りをやめてしまう田んぼも増えているそうです。農業をする人が減ったのは、お米を作るのは大変で、自分ではやりたくないと思う人が多いためだと考えます。若い農家の人を増やすには、自分で作ったからこそ新米がともおいしく感じることや、コンバインをそうじゅうするかつこよさなどのみりよくを伝えていくと良いのではないかと思います。

ぼくは、こういった最近の出来事から、お米は大切だと改めて感じました。これからも大好きなお米をずっとおいしく食べていけるように米作りの手伝いを続けていきたいです。

- 表紙の絵は、令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールで優秀賞を受賞した荻莊 百合さんの作品です。
- 裏表紙の作文は、同コンクールで優良賞を受賞した佐藤 伶一さんの作品です。

小学校

年 組

名 前